

令和5年度

奈良市立看護専門学校

一般入学試験問題

国語

試験時間 50 分（問題 1～17）

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
2. 机には、受験票、筆記用具以外のものを出してはいけません。
3. 係員の指示に従って、**下欄及び解答用紙に受験番号と氏名を記入し**、解答用紙の受験番号欄をマークしてください。
4. 解答方法：選択肢(1～5)から**正解を一つ選び**、解答用紙の解答欄の該当番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
5. マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように濃く、はっきりと塗りつぶしてください。「悪い例」では採点されない場合があります。
6. 試験中に問題の印刷不鮮明等に気付いた場合は、手を挙げて係員に知らせてください。なお、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
7. 問題の余白はメモ等に使用して構いません。
8. この問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

受験番号

--	--	--

氏名

--

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(ア)「述べて作らず」——これが孔子の学問の態度であり、また教育者としての態度であった。

その意は、古聖人の道を祖述する以上にあえて自己の創見によって新しい道徳律を作るのではない、というのであるが、古聖人とは、孔子においては、「大学」にいうところの「明德を明らかにした」地上の人であり、「修身・齐家・治国・平天下」を実現した理想的為政家であって、決して現世を超越した神秘的存在ではなかった。もっとも、それほどの人物が果して史上に実存したかは頗る疑わしいのであって、むしろそれは孔子自身の修徳をとおして描き出された理想の象徴であり、創作であると見る方が正しいのではないかと思われるが、孔子自身にとっては、それはあくまでも実存の人物であったと信じられていたのである。ここに孔子の現世的性格と現世的修養の道程とが明らかにうかがわれる。すなわち、彼にとっては、人間の理想社会の実現は決して人間自身の努力の限界をこえたものではなく、それは政治の理想化によって可能であり、そしてその実証として過去の歴史に聖人の治績があったわけなのである。

なお、「論語」を読むにあたって、もう一つ大切なことは、(イ) その時代的背景を一応心得ておくことである。このことは、「論語」が政治の書であるだけに、政治とは無縁な仏典やバイブルを読む場合に比して、はるかにその重要度が高い。(A)で、それについて簡単にふれておきたいと思う。

孔子は西紀前五五二年に生れ、同四七九年七十四才で歿したが、この時代は、中国の歴史で普通いうところの春秋時代の末期、すなわち、夏・殷・周とうけついで来た三代の王朝の最後の王朝たる周室が、全くその権威を失って、十二の諸侯が覇権を争い、その諸侯も内部的に決して安全ではなく、内乱が頻発して、徐々に政治の実権が下にうつり、ほとんど無政府的な混乱状態を呈しつつあった時代である。

周王朝の政治組織は諸侯をその下に従えていたという意味で、もとより封建制度であった。しかし有力な諸侯の大部分は周室の同族で、共同の宗廟を持ち、祭祀を共にする宗族関係で周室に結ばれており、(ウ) この関係は、氏族を異にする侯国以下との間にも、社稷(土地の神・穀物の神)を祭ることによって延長されていたのである。だから、周代の国家は、封建国家というよりも、むしろ祭政一致の宗族国家という方が適当であった。そして、それに基づいて、天子・諸侯・卿・大夫・士・庶民というように、厳格に身分が定まっており、祭祀・礼法のごときもその身分に応じてそれぞれの規定があり、それをみだすことは、やがて国家の秩序や道義をみだす最大の悪徳とされていたのである。

孔子は、かような国家組織の中に生をうけたのであるが、彼はその組織の根本については何の疑惑も抱いてはいなかった。それどころか、周祖武王をたすけてその組織に基礎をおいた周公(武王の叔父)は、彼にとっては、いわゆる古聖人の一人だったのである。しかも彼の生地魯国(彼は現在の中国山東省曲阜県、当時の魯国昌平郷陬邑に生れた)は、周公の子孫の国で、その宗廟には周公が祭られており、いわば周室の政治と道義の守本尊ともいべき位置にあった。かくて彼は、周室の諸制度について疑惑を抱くどころか、それを至上のものと考え、誇りをもってその研究に精進することを念願した。「論語」にいわゆる「十有五にして学に志す」とあるのも、少年時代における彼の、この意味での精進を物語るものに外ならないのである。(B)

かような彼が、春秋末期の諸侯・諸卿・諸大夫の下剋上や、僭上沙汰や、権力争いや、利害本位の取り引きや、武力抗争等について、深い憂いと怒りを感じたであろうことはいうまでもない。そしてまた、それがいよいよ彼の研学心や教育熱に拍車をかけ、実際政治に対する彼の欲望をそそ

り、ひいては彼の苦難にみちた諸国巡歴の旅への大きな刺戟しげきになったであろうことも、疑いを容れないところである。㉔

「論語」には、彼のそうした憂いや怒りの言葉が、いたるところに散見される。㉕そしてここに、**(エ)**「論語」を読む者の心しなければならぬ重要な二点があるのである。

その第一は、「論語」の言葉のあるものは、今日のわれわれの時代においては、文字どおりに受け容れられるものではなく、また強いて受け容れようとしてはならないということであり、その第二は、しかし、だからといって、「論語」をただちに時代錯誤の書として早計にすててしまつてはならないということである。

なるほど孔子は、中国周代の民として、周公によって基礎をおかれた当時の諸制度を讚美さんびし、その精神を生かすことに努力した。その点で、まぎれもなく彼は封建的宗族国家の忠実な一員であった。従つて彼の言行のあるものは、その表面にあらわれたかぎりにおいて、今日のわれわれにはむしろ奇異に感じられ、しばしば滑稽にさえ感じられるものがある。特に、「論語」の中で彼の坐作進退ざさくしんたいを記した条下や、彼が祭祀その他の礼の形式に関して語るのを読む場合においてそうである。また彼が治者被治者の関係について語るのを読む場合、その中のある言葉については、おそらく今日の何人も重大な疑問を抱かすにはいられないであろう。そして、そうした点から、「論語」が今の日本人の意識の中で影がうすくなって行くことも、一応うなずけないことではない。㉖

では、「論語」は、周代の封建的宗族国家の経典以上の何ものでもないかということ、決してそうではない。かりに「論語」から周代の色をおびていると思われる一切の表現を消し去つて見るがいい。

(オ)、今日から見て少しでも時代錯誤だと思われる表現があつたら、それをも遠慮なく消し去つて見るがいい。そのあとに何も残らないかということ、むしろわれわれは残るものの多きにおどろくであろう。しかもそれらはすべて古今を貫き東西を貫く普遍の真理であり、そしてそれらの真理が、時代錯誤だと思われ、周代の考え方だと思われる表現の底にも、厳として存在していることに気づくであろう。

「論語」を通じて見た孔子は、決して単なる周代の忠実な封建人ではなかつた。またむろん事大的きよくがくあせい曲学阿世の徒でもなかつた。仁に立脚して知を研みがき、詩と楽とを愛して調和に生き、敬慎事に当り、勇断事を処し、剛毅正ごうきを守る底の万世の師が、たまたま周代の衣を着、周代の粟あわを食み、周代の事を憂え、周代の事に当つたが故に、周代の色を帯びたまでのことなのである。

かくて **(カ)**「論語」は周代の皮に包まれた真理の果実であるということが出来よう。われわれはその皮におどろいて果肉をすててはならないし、さればといって、皮ごとのみにしてもならない。皮をはいで果肉をたべる、これが要するに「論語」の正しい読みかたなのである。

(下村湖人「現代訳論語」による)

問題 1 次の文は本文の一部である。最も適当な挿入場所はどこか。文中の㉗～㉚のうちから一つ選択せよ。

否、考えようでは、「論語」の言葉のすべてが、周朝の政治と道義の維持こうよう昂揚のための言葉であつたといえないこともない。

1 ㉗

2 ㉘

3 ㉙

4 ㉚

5 ㉛

問題 2 下線部 (ア) 『述べて作らず』——これが孔子の学問の態度であり、また教育者としての態度であった」とあるが、これに関する説明として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 自己の創見によって新しい道德律を作るよりも古聖人の道を祖述する方がたやすい。
- 2 理想的為政家は、孔子にとって現世に実存する可能性のある人物だった。
- 3 古聖人は「明德を明らかにした」地上の人であり、理想社会の実現によって現れる。
- 4 人間の理想社会の実現には、人間自身の努力と理想的為政家による政治の理想化が必要である。
- 5 古聖人の治績と現世の人間が行う自己の創見によって、理想社会の実現は可能である。

問題 3 下線部 (イ) 「その時代背景」とあるが、それはどのようなものか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 周室が権威を失って、十二の諸侯が覇権を争っており、各諸侯が国を治めている時代であった。
- 2 周王朝は封建制度を採用したため、祭祀を共にする宗族関係で周室に結ばれていた。
- 3 周王朝では氏族を異にする侯国以下とも封建制度を築く手段として、共同の社稷を祀っていた。
- 4 周室は有力な諸侯と祭祀を共にしており、これらは氏族を異にする侯国などにも広がっていた。
- 5 王朝における最大の悪徳は、身分制度への反抗よりも厳格な祭祀や礼法を疎かにすることであった。

問題 4 空所 (ウ) に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 それゆえ
- 2 しかも
- 3 しかしながら
- 4 すなわち
- 5 つまり

問題 5 下線部 (エ) 『論語』を読む者の心しなければならない重要な二点」とあるが、それに関する記述として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 孔子が「論語」において坐作進退を記した条下などに対して、疑問を抱きながら読む必要があること。
- 2 「論語」において今日のわれわれが奇異に感じる部分を見過ごさず、納得するまで何度も読むこと。
- 3 時代錯誤で文字どおりに受け容れられない表現は消し去って、そのあとに残るものに注目すること。
- 4 周代の考え方で現代に通用しないものでも、その表現の仕方から学ぶことは多いということ。
- 5 今日のわれわれには、「論語」にかわるような新しい表現や普遍の真理が求められていること。

問題 6 空所 (オ) に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 また
- 2 一方で
- 3 つまり
- 4 しかも
- 5 だから

問題7 下線部(力)『論語』は周代の皮に包まれた真理の果実」とあるが、それはどのようなことであるか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 「論語」は周朝の政治や道義の維持昂揚こうようのための言葉であり、周代の時代錯誤な表現に包まれていること。
- 2 周代の封建的宗族国家の經典にみえる「論語」には、その中身に古今を貫く普遍の真理が存在すること。
- 3 周室の諸制度を至上のものと捉え、その研究に精進した孔子は「論語」でその時代の真理を残したということ。
- 4 「論語」には一見時代錯誤にみえる表現も多いが、その表現の真理は現代にも通用する普遍のものであること。
- 5 周代を生き、周代の事に当たった孔子の「論語」は果実同様、時代を減るにつれ真理の部分も少なくなっていくこと。

問題8 本文の内容と合致する記述として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 無政府的な混乱状態にある国家組織に対して孔子は危機感を持っており、それが彼の研究のきっかけとなった。
- 2 周室の政治の根本に対して孔子は疑惑を抱いていたため、その制度を憂いて書いた言葉が「論語」には散見される。
- 3 孔子の行った諸国巡歴の旅は、周代に限らず時代を跨またいで普遍の真理を説く「論語」ができた要因の一つである。
- 4 「論語」は今の日本人の中で影がうすくなっているが、それは「論語」の言葉に疑問や滑稽さを感じることもあるためである。
- 5 「論語」の時代背景を理解して読むことが大切な理由は、「論語」が時代に関係なく最重要な政治に関する書であるためである。

第2問 次の各問いに答えよ。

問題9 下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 昨夜の大雨で玄関が水に浸(した)った。
2 その家は狭(は)まった道の先にある。
3 商品を塩梅(あんばい)よく店先に並べる。
4 母の戒(かい)めを忘れてはならない。
5 更(こと)に努力を続ける。
- (2) 1 日勤と夜勤を交替(こうかん)で勤務する。
2 朝の支度(しと)に時間を取られる。
3 友人に思いの丈(じょう)をぶつける。
4 政権の瓦解(がかい)が起こる。
5 寸暇(すんひ)を惜しんで訓練を行う。

- (3) 1 彼女の意見は中庸（ちゅうよう）を得ている。
2 水を一杯所望（しょぼう）する。
3 上司に恭（ふさわ）しい態度で接する。
4 交番に拾得（しゅとく）物を持っていく。
5 酒を酌（の）んで語り合う。

問題 10 下線部の漢字が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 害虫を区除する。
2 仕事の報収を受け取る。
3 新入社員を尉安する。
4 痛根のミスを犯す。
5 急な知らせにびっくり仰天する。
- (2) 1 オリンピックに出場した選手が意気陽々と帰国する。
2 相手を軽別した目で見ると。
3 彼女には天賦の才がある。
4 この肖像画には見覚えがある。
5 禍中の人物を取材する。
- (3) 1 敵を完負なきまでやっつける。
2 絵馬に願い事を書いて奉納する。
3 斬進なアイデアを思いつく。
4 空気を清静に保つ。
5 たくさんの障害を強硬突破する。
- (4) 1 輪海地域の開発が進んでいる。
2 住宅ローンの繰り上げ返載を行う。
3 駐車違判の反則金を納付する。
4 最短の通勤距離を計側する。
5 従業員が待遇の改善を要求した。

問題 11 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選択せよ。

- (1) 橋のラン干をつかむ。
- 1 株価がラン高下する。
2 サケが産ランする。
3 展ラン会でお気に入りの絵画を眺める。
4 空ランを埋める。
5 彼は師匠との対戦に勝利し、まさに出ランの誉れだ。

(2) 校舎の改シュウ工事を行う。

- 1 イベントを開催してシュウ客を試みる。
- 2 刺激シュウのある気体を扱う。
- 3 金銭にシュウ心する。
- 4 この論文はシュウ逸だ。
- 5 精神のシュウ養に励む。

(3) 母校のエン革を調べる。

- 1 未解決だった事件が大団エンを迎えた。
- 2 私鉄のエン線に住む。
- 3 エン日で金魚すくいを楽しむ。
- 4 エン天下での作業に苦戦する。
- 5 濃いエン霧が街を覆いつくす。

問題 12 次のうち「懸念」の同意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 憂慮 2 安楽 3 重荷 4 喜怒 5 禁断

問題 13 次のうち「緻密」の反意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 寛大 2 相応 3 広範 4 散漫 5 破滅

問題 14 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) リーズナブル

- 1 しまりがないさま。だらしがないさま。
- 2 境界・国境があいまいなこと。
- 3 理にかなっていて納得できるさま。価格が手ごろなさま。
- 4 抑えてきた状態から解き放すこと。
- 5 定住することなく自由に別の場所に移動できる人間。

(2) 渡りに舟

- 1 無条件で、また全面的に歓迎する気持ちを表す言葉。
- 2 欲しいものを目の前にして、それが欲しくてたまらなくなる。
- 3 多くの中から、基準や条件にかなったもののみを選び出す。
- 4 得意とする事柄で能力を発揮するたとえ。
- 5 ちょうど好都合な条件が現れることのたとえ。

(3) 勘定合って銭足らず

- 1 理論と実際が一致しないたとえ。
- 2 激しく争うたとえ。
- 3 道筋が合うようにする。
- 4 互いに相手の秘密や欠点をあばき合う醜い争い。
- 5 気まずく感じる。

(4) 臥薪嘗胆^{がしんしょうたん}

- 1 勢いが消えうせること。
- 2 目的を達成するために苦勞を耐え忍ぶこと。
- 3 これから先に、多くの困難が待ち受けているということ。
- 4 望みを失い、がっかりしているようす。
- 5 あきっぽくて何をしてしても長続きしないこと。

(5) 順風満帆

- 1 何のわだかまりもなく、清らかで澄みきった心境のこと。
- 2 他人の意見や批評をまったく気にとめず聞き流すこと。
- 3 気持ちが高まり、自信たっぷりに、誇らしげにふるまうさま。
- 4 物事がきわめて快調に進んでいるさま。
- 5 仲良く和やかな雰囲気^{ふんいき}に満ちていること。

問題 15 次の意味を表す言葉として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) 秩序の認められない混沌^{こんどん}とした世界。

- 1 カオス
- 2 ユートピア
- 3 アニミズム
- 4 イニシエーション
- 5 インフェルノ

(2) 理屈ではわかっているながら、実行が伴わないこと。

- 1 袋の鼠^{ねずみ}
- 2 物の弾み
- 3 絵に描いた餅
- 4 医者^{いしや}の不養生
- 5 藪^{やぶ}から棒

(3) 物事の様子^{さま}がまったく分からず、方針や見込みが立たないこと。

- 1 虎視眈眈^{たんとん}
- 2 五里霧中
- 3 言語道断
- 4 大逆無道
- 5 迷者不問

問題 16 次のうち下線部の言葉の用法が正しいものを一つ選択せよ。

- 1 数々の問題がついに明るみになった。
- 2 景気の停滞を脱するには破天荒な試みが必要だ。
- 3 彼女はうる覚えの歌詞を口ずさんでいた。
- 4 繰り返し質問したが相手に無視されて取り付く暇もない。
- 5 株が急激に値を上げて濡れ手で泡の利益を得た。

問題 17 次の記述に当てはまる人物の名前として正しいものを一つ選択せよ。

この人物は小説家であり、英文学者である。明治 26 年に大学を卒業した後、中学校等の教師となる。その後、『倫敦塔』などを執筆し、続く『草枕』などでゆるがぬ声価を確立した。明治 40 年には新聞社に入社して創作に専念し、『虞美人草』などを書き、自然主義の告白性と対立する客観小説を完成した。また芥川龍之介ら多くの俊秀を育てた。『行人』など晩年の大作では知識人の孤独な内面に光をあて、自意識の不安と苦悩を描いた。

- 1 石川啄木
- 2 島崎藤村
- 3 夏目漱石
- 4 北原白秋
- 5 中原中也

以上